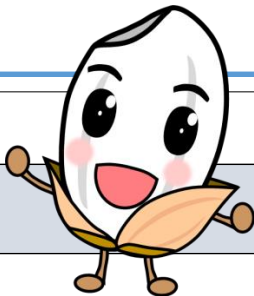


令和7年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第6号（水稻）

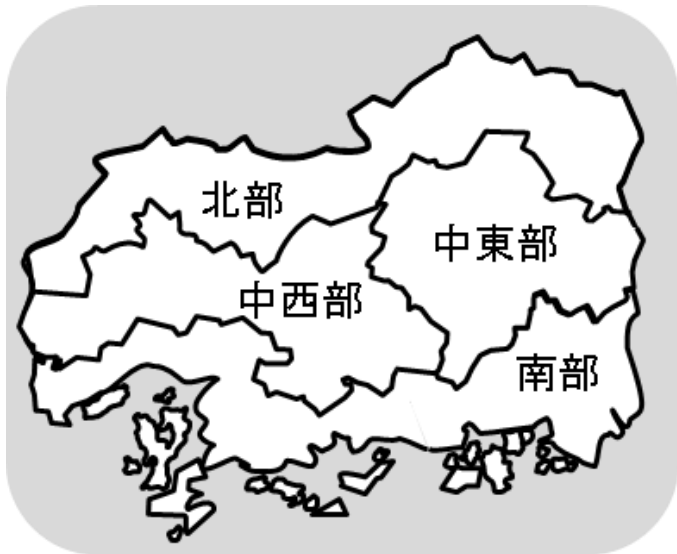
令和7年7月25日発表（対象期間：令和7年7月下旬～8月上旬）



1-（1） 水稻病害の現況と予報（概要）

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	北部 （早生）	穂いもち やや少 	穂いもち やや少 	・ 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。 ・ にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
葉いもち	中西部・中東部 （中生）	葉いもち 少 	葉いもち 少 	
	南部 （中生）	葉いもち やや少 	葉いもち やや少 	
紋枯病		並 	やや多 	・ 梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病株率が増加するので注意が必要です。 ・ 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・ 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。

水稻虫害（概要）は次ページに掲載しています。



【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」： 1 番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」： 2～3 番目と同程度
- 「並」： 4～7 番目と同程度
- 「やや少」： 8～9 番目と同程度
- 「少」： 10 番目（最少年）と同程度以下

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
セジロウンカ			・穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。 ・一部の飼料用米では、特に注意しましょう。 ・要防除水準、幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ			・長期残効型箱施用剤を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 ・要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
コブノメイガ			・粒剤の防除時期は発蛾盛期（成虫が多く見られる時期）、粉剤・液剤の防除時期は発蛾盛期1週間後です。 ・中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、防除を行いましょう。
斑点米カメムシ類			令和7年7月25日発表の 「令和7年度病害虫発生予察情報注意報第1号」を参考にしてください。



①- 1 穂いもち 北部 (早生品種)		現況 (葉いもち)	予報 (穂いもち)
予報の根拠	●7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率は12.5% (平年値26.7) で平年よりやや少ない発生です (-)。 ●中国地方1か月予報では、気温が高く、いもち病の発生を抑制します (-)。 ●BLASTAMによる累積感染好適日は、平年並です (±)。	やや少	やや少
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

【防除上の注意事項】

- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。
穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では直ちに防除しましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

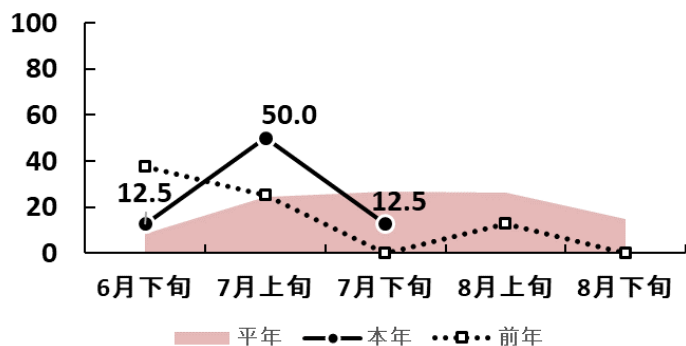
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

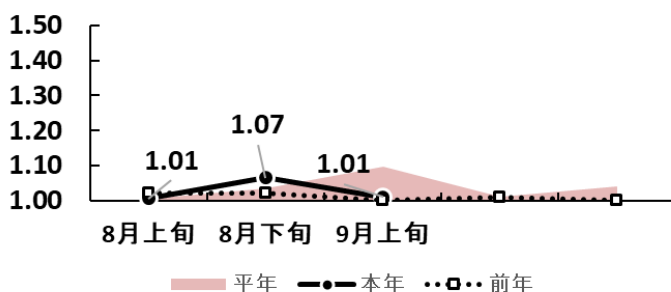
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率 (北部8地点)



葉いもち 発生程度 (北部8地点)



①-2 葉いもち 中西部・中東部（中生品種）

現況
(葉いもち)

予報
(葉いもち)

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率は22.2%（平年53.7%）、発生程度は1.01（平年1.13）で、過去10年で最も少ない発生です（－）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、いもち病の発生を抑制します（－）。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、平年並です（±）。

少



少



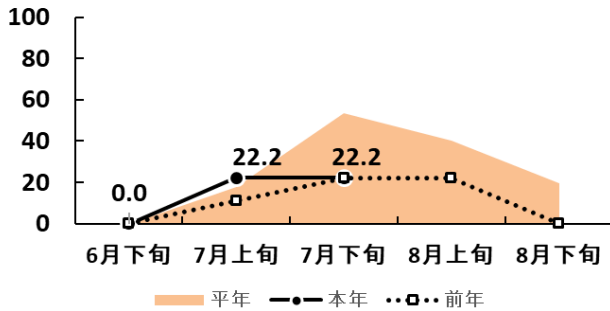
(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

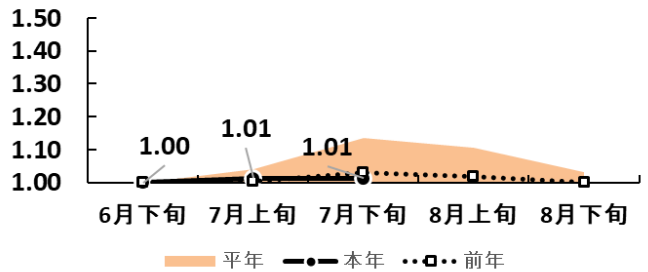
- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では直ちに防除しましょう。

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(中部中生9地点)



葉いもち 発生程度(中部中生9地点)



①-3 葉いもち 南部（中生品種）

現況
(葉いもち)

予報
(葉いもち)

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率が11.1%（平年47.6%）、発生程度は1.06（平年1.09）で過去10年でそれぞれ10番目、5番目の発生です（－）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、いもち病の発生を抑制します（－）。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、平年並です（±）。

やや少



やや少



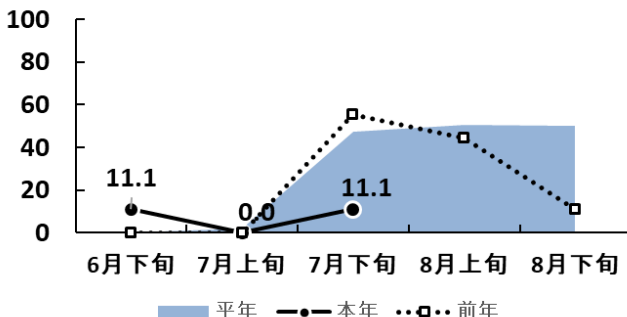
(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

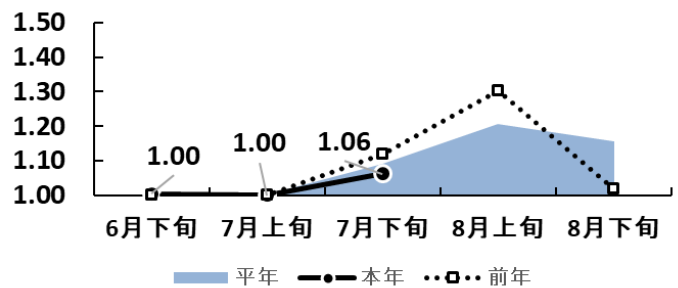
- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では直ちに防除しましょう。

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(南部9地点)



葉いもち 発生程度(南部9地点)

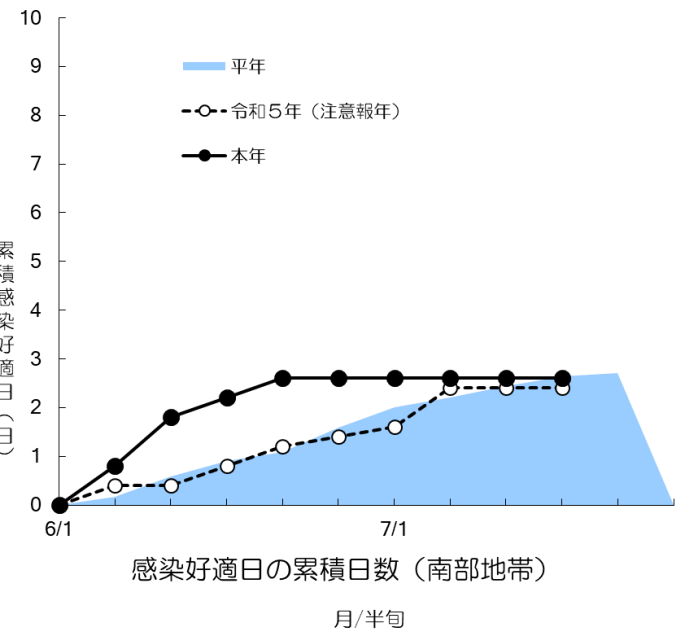
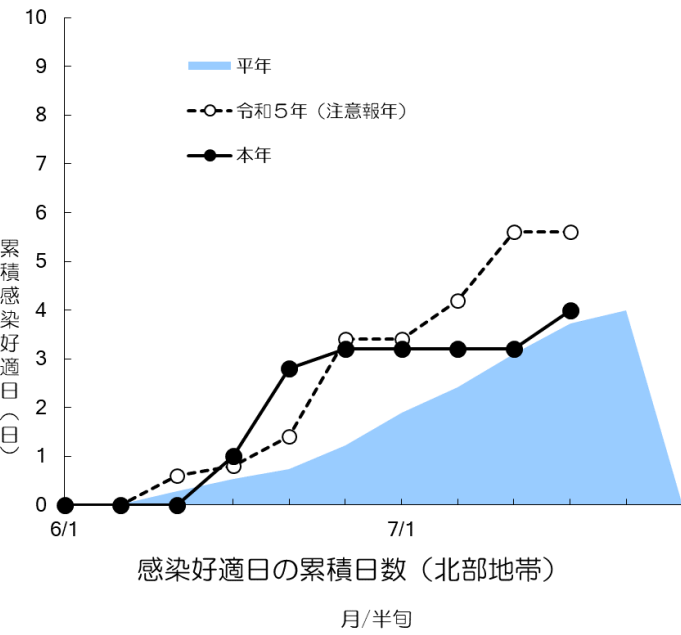
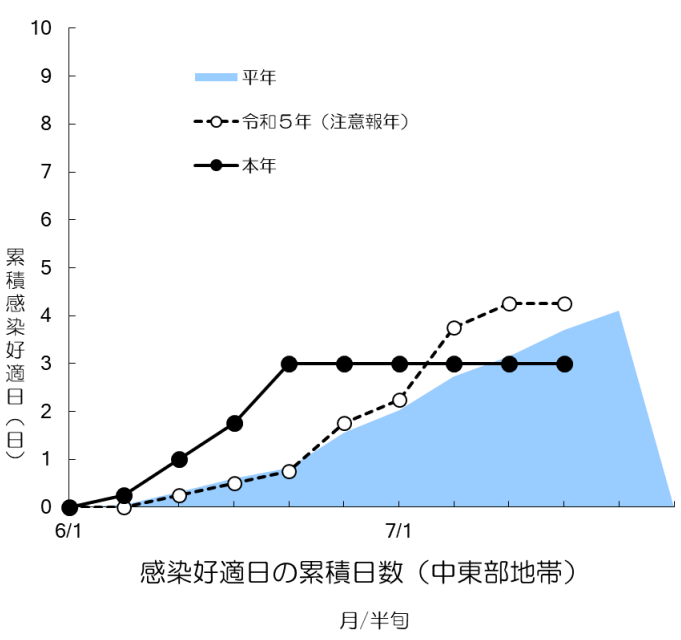
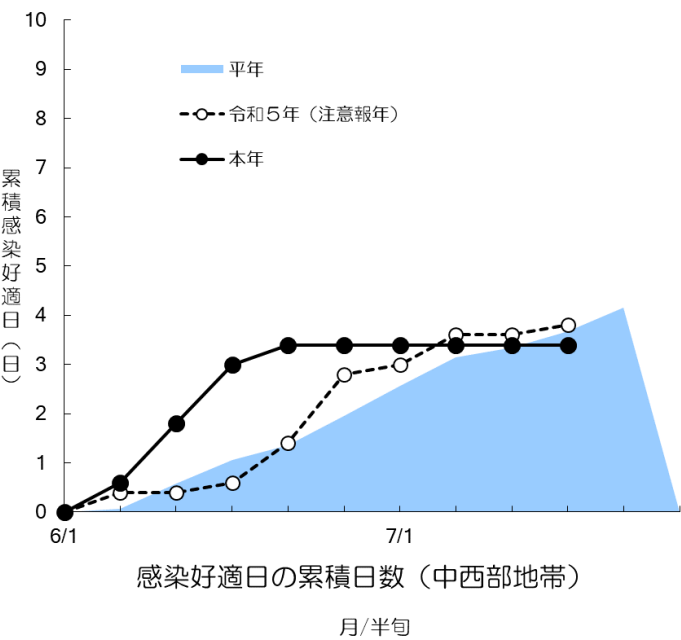


BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて、気象庁のアメダスデータ（気温、降水量、風速、日照）から、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは、BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。



② 紋枯病

現況

予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 7月下旬巡回調査では、平均発生地点率が17.1%（平年15.3%）で過去10年で5番目の発生でした（±）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、紋枯病の発生を助長します（+）。

並



やや多



【防除上の注意事項】

- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。梅雨明け後の高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期。薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。

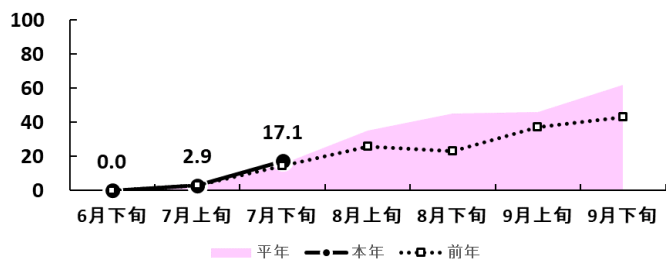
(要防除水準)

穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

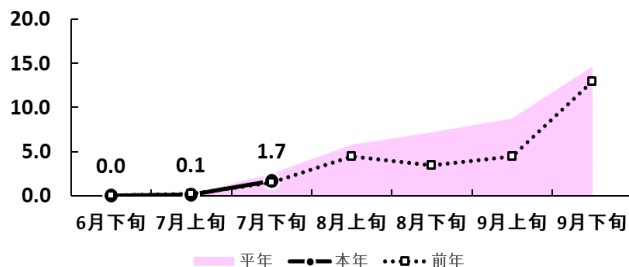
【巡回調査データ】



紋枯病 発生地点率(全域 35地点)



紋枯病 発生株率(全域 35地点)



③ セジロウンカ

現況

予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 7月下旬巡回調査では、発生地点率が42.9（平年69.3）で平年よりやや少でした（-）。
- 予察灯で、7月3～5半旬には確認されませんでした（-）。
- 予察田で、7月第5半旬に100株当たり24頭（平年256頭）となっており、過去10年で2番目に低いです（-）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（-）。

やや少



やや少



【防除上の注意事項】

- 基幹防除を徹底し、発生量が多い場合は防除しましょう。
- 出穂期以降は通常防除の必要はありません。

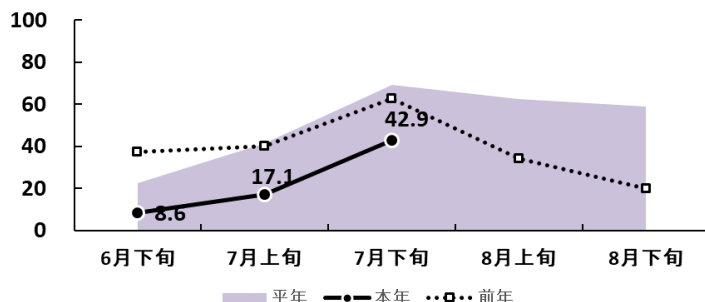
(要防除水準)

幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上

- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

【巡回調査データ】

セジロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



長翅型成虫



中老齢幼虫

④ トビイロウンカ

現況 → 予報

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、35地点中2地点で確認されました（+）。
- 予察灯（呉市）で、7/7に雌成虫が1頭確認されました（+）。
- 予察灯（東広島市）、予察田（呉市）では、確認されていません（±）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（-）。

（+）：多発要因
（±）：平年並
（-）：少発要因

やや多



やや多

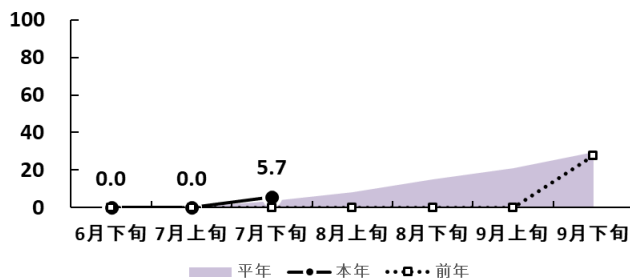


【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



長翅型成虫



短翅型成虫



中老齢幼虫

⑤ コブノメイガ（中生）

現況 → 予報

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、平均発生地点率が5.7%（平年24.4%）で過去10年で2番目に少なくなっています（-）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。

（+）：多発要因
（±）：平年並
（-）：少発要因

少

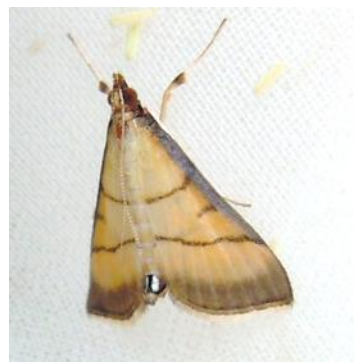


少



【防除上の注意事項】

- 粒剤の防除時期は発蛾盛期（成虫が多く見られる時期）、粉剤・液剤の防除時期は発蛾盛期1週間後です。
- 中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、防除を行いましょう。



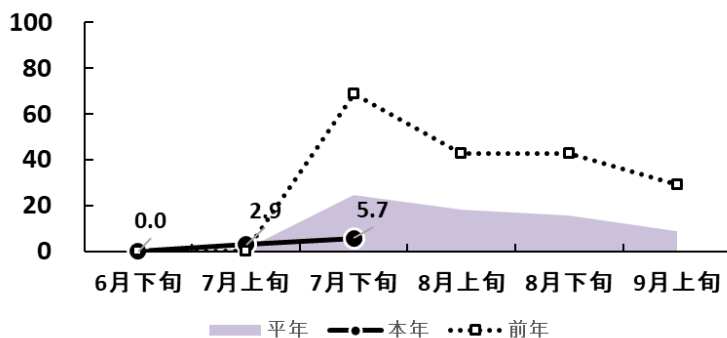
成虫



被害葉

【巡回調査データ】

コブノメイガ 発生地点率(県全域 35地点)



病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	少 	出穂前後の防除を徹底する。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	少 	穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。

中国地方 1 か月予報

(広島地方気象台 7月24日発表、7月26日から8月25日までの天候見通し)

●向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

●向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

●週別の気温は、1週目は高い確率70%、2週目は高い確率70%、3～4週目は高い確率50%です。

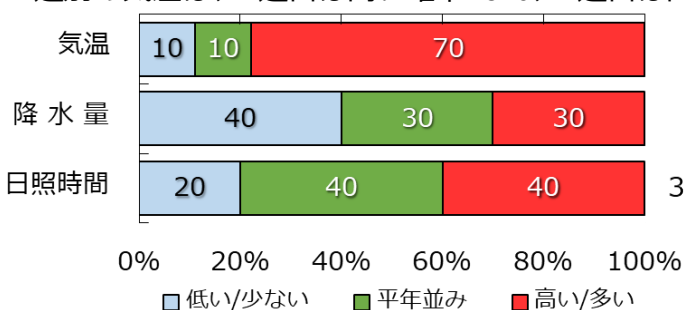


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

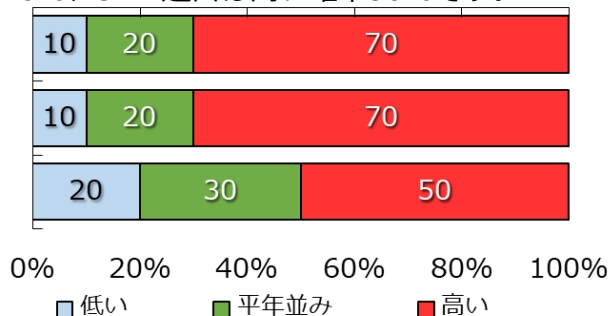


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

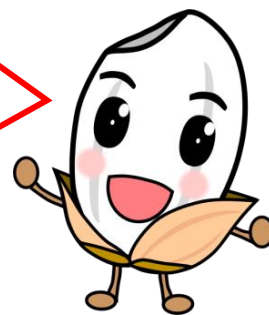
農薬危害防止運動について

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。

危害防止講習会のオンデマンド配信についてはこちら↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/1305610235740.html>

8月31日まで視聴可能です。(申込締切：8月25日)



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)